
FAIRYTAIL ~ 運命の鎧 ~

レイト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FAIRYTAIL〜運命の鎧〜

【Nコード】

N3077Y

【作者名】

レイト

【あらすじ】

最凶の悪魔、鴉くレイヴンをその身に封じた少年レイは町を出てとある森へと向かい歩いていく。そこで出会ったのは妖精の尻尾の魔導士、レイがギルドの仲間と共に成長していく物語

地に降り立つ鴉

- Reside -

鴉<レイヴン>・・・そう呼ばれる悪魔がいた。

黒き騎士の鎧に黒き魔力を纏い、鴉にも似た翼を持つことからレイヴンと名付けられた。大きさは190cmくらいだろうか。レイヴンの出現した町や村は一つの例外も無く消えていく・・・その地方では黒魔導士ゼレフなのではないかと噂されることもあった

その悪魔が今俺達の町へと向かっている、住民の避難は間に合わない。それは・・・レイヴンは何の前触れも無く現れるからだ。

現在も郊外の町が破壊されるまで気付く者はいなかった

相手の力は未知数、今だ一人として生存者も無かったため情報が不足している。

その悪魔を封じるために用意されたもの・・・それが俺、レイ

俺はある得意体質だった。それは相手を接收する際に上から自動封印術式をかけることで暴走を防ぐというものだ

この術式は俺が接收する時にのみ現れ、現在あるどの魔法にも当てはまらない事から完全封印とも呼べるものになっている

だが相手はあのレイヴンだ・・・封印できてもその後の保証はでき

俺「テメエを逃がしはしない・・・ここで俺が止める!!この町は俺が守るんだアアア!!」

次の瞬間、町全体が光に包まれその光が収まる頃にはレイヴンの姿は消えていた

接收は成功したのだ。体の内に強力な魔力を感じる・・・これは封印だ、解くわけにはいかない

つまり接收したところで全身接收はできないってことだ。おそらく全身接收すれば俺の精神が喰われ理性を失い新たなレイヴンとして生きていくことになるだろう

俺「それにしても・・・この鴉は厄介だな・・・封印してもまだ暴れてやがる」

町長「すまないが・・・お前を・・・レイヴンをこれ以上町には置いておけない」

わかっていたことだ。いつ暴走するかわからない危険因子を置いてきたがる町なんてそうありはしない

俺「そうだな。今まで世話になつた・・・俺は行くよ」

俺は一人町を出ていく事にした。それが町のためなのだから

それにしても、不思議なことにレイヴンの力の一部は使えるようだ。接收した時にコイツの能力が少しだけわかった

それは武器、コイツの体内には幾千もの武器がありどれもレイブンの魔力を吸ってる魔武器だ

この武器を使用することができるようになっている。もし、この力が使いこなせるようになったらもっと多くの力が使えるようになるかもしれない

俺は森を目指し歩き始めた

妖精の尻尾

- レイ side -

森をただひたすらに歩いていく、レイヴンを封じたあの日から身体能力が格段に上がっている。

だが、それでも疲労というものは溜まってしまつものだ

俺「少し寝よう・・・」

近くにあった木によりかかり睡眠をとろうと目を瞑る

数時間後・・・

周りの雰囲気がおかしいことに気がついた、人のいない森で眠っていたはずなのに今は人で溢れているギルドにいたのだ

グレイ「よ、目がさめたみたいだな。俺はグレイ、よろしくな」

俺「あ・・・ああ、よろしく」

ところで、ここはどこなのだろう？

マカロフ「ここは妖精の尻尾、魔導士ギルドじゃ。わしはマスターのマカロフ、ところでお前さんは何故あのような場所で眠つったんじゃ？」

隠していても仕方がないので俺にあった出来事を全て話した

マカロフ「なんと・・・」

これで俺はまた別の町へと行くことになるだろう

マカロフ「ならば、妖精の尻尾に入らんか？」

俺「な・・・！？俺は化物を体に飼ってんだぞ！？」

俺の中にいるレイヴンはまだ生きている、いつ暴走するかもわからないんだ

マカロフ「なあに、そんな小さいことは気にせんよ」

ミラ「私はミラジェーン、行くところがねえなら居ればいいじゃないか」

エルザ「ミラの言うとおりだ。おっと・・・遅れてすまない。私はエルザだ」

俺「はぁ・・・何を考えてるのかサツパリだ」

マカロフ「一人は寂しかろう。みんなでいるほうが楽しくてええぞ？」

確かに皆笑っていてとても楽しそうだ・・・

俺「俺は人の輪に入っていていいのでしょうか・・・？」

マカロフ「何を言っとるんじゃない、当たり前じゃろう。人が人と関わ

つてはならんという決まりなんぞはこの世にはない！だから、お前も人の輪にいいんじゃない？」

俺「ありがとうございます・・・！」

ミラ「よし、じゃあ早速私と仕事に行くか！」

エルザ「ミラと仕事に行っている間は身がもたんだろうから私が行く」

ミラ「って子とエルザが喧嘩を始めた

マカロフ「ようし、これでお前もギルドの一員じゃ！そついえば名前を聞いてなかったのう」

俺「レイ・・・それだけです」

ミラ「私は夜の月明かりに照らされているレイを見つけたんだ・・・だからムーンライトでいいだろ？」

レイ・ムーンライトうん、悪くない

俺「ありがとうございます」

ミラ「べ、別に礼を言われるほどのことはしてねえよ」

ナツ「ん？ミラ照れてんのか？」

右の肩に妖精の尻尾である証をつけ俺は魔導士ギルドの一員となったのである

設定紹介

レイ＝ムーンライト

18歳、好きなものは仲間、嫌いなものは闇

身長は182cm

15歳のころにレイヴンを自身の体に封じ故郷を去ることとなった過去がある。使用する魔法は吸収したレイブンの力を使う、まだ完全に扱えるわけではないので現段階では一部の能力しか使えない

乗り物に乗るとつい寝てしまうという不思議なクセの持ち主でナツと仕事に行くときは寝過ぎすため時間がかかってしまう。普段から寝ていることが多い

魔武器を取り出す時などに鴉の羽が天から舞い降りてくること、体内にレイヴンを宿していることから二つ名は鴉<レイヴン>となっている

レイヴン

レイに封じられた凶悪な悪魔。何を考えているのか、そもそも意思があるのかすらわからず多くが謎に包まれている。鎧に包まれ黒い魔力を纏っている

咆哮だけで町にダメージを与えるなど規格外とも言える性能だった
<レイより>

能力はレイにもわからず、今わかっているのはレイヴンの体内には幾千もの武器があるということ。

レイヴンは異質で普通の悪魔とは異なり、竜とも異なる。まったくもって新しいものだと言える

ただ、今までの被害から言つと悪魔という言葉が適切なのだ

設定紹介（後書き）

ヒロインが決まっていなのが悩みどころです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3077y/>

FAIRYTAIL ~ 運命の鎧 ~

2011年11月7日10時02分発行